

令和4年度 第10回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会場 令和5年1月26日（木）午後7時00分～8時45分 602会議室+Web会議
出席者 谷部議長、松本副議長、石河委員、小池委員、齋藤委員、指田委員、
二ノ宮リム委員、信國委員、吉川委員
欠席者 小原委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開会

<配布資料>

資料1 第69回昭島市はたちのつどい～20celebration～の実施結果について

資料2 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4回役員会次第

- ・月間行事予定表（2月）
- ・昭島市郷土資料室だより 鯨～いさな～ Vol. 7
- ・ギョッ！？とするような魚たち（チラシ）
- ・令和4年度生涯学習サポーター養成講座（チラシ）

2 報告

（1）令和4年度昭島市はたちのつどい～20celebration～について（資料1）

※事務局より資料の説明

（2）令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4回役員会について（資料2）

※事務局より資料の説明

3 協議

（1）市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

議長 第7回で市民の方々から活動の課題などについてお話を伺うなどしたが、今後どう
いうふうに具体的に展開したらいいのか、それを中心とした内容にしたい。3月18
日の午後に予定している。どのような形がよいだろうか。

事務局 前回第7回の際、4つほど市民のみなさんからご意見があった。前回の社会教育委
員会議の中で、この中の一つをプロジェクト化するというよりは、参加してくださ
った方々にあきしま会議の準備会のような形で参加していただき、令和5年度に実施す
る予定のあきしま会議についてどんな形で実施したいかなどについてもお話し
る場を設けてはどうかという話だった。

委員 参加したい4つのテーマの中から選んでもらう方式はどうか。全国大会とかの分科
会のようなイメージだ。その方がやりたいことがやれて、話したいことが話せてよい
と思う。

議長 テーマの内容によって偏りが出る場合もあるかもしれない。

委員 私たち委員がどのテーマをやりたいかということもある。

委員 参加した子どもたちは新鮮な体験をさせていただいた。こういう状況もあって、先生や保護者ではない知らないおとなと話を真剣にする場面がないので、その経験だけでもすごく大きかった。欲を言えば、そこでなにかもらってきたものを学校に持ち帰り、学校の中でアクションを起こしていくことにつながるというと思う。会議でこんなことをしていこうということに対して、中学生として、学校の中や街の中で何ができるかというムーブメントにつながっていくような流れをつくっていきたい。

ぜひ、全部の中学校に声をかけて、ほかの学校の生徒たちと交流する場、学校や地域によって考え方などの違いなどを感じる機会として、中学校の輪も広げていきたい。

委員 ボーイスカウトでは教育的目的も強く、システム化されているが、今一番気を付けているのが子どもを守るプロジェクト。セイフ・フロム・ハームというもので、子どもに対しての接し方などしっかり学ぶ仕組みになっている。おとなと子どもの関係性の中で虐待など阻止しようという取り組み。ほかの団体ではそのような取り組みがあるのかどうかとても関心がある。おとなと子ども、おとな同士の関わりの中でどのようにトラブルを回避するのかなど、子どもたちとの接し方のルールなどを知りたいと思う。各団体、みんなが和気あいあいと楽しくやっているだけではないと思うので、状況や情報を知りたい。その解決や運営方法なども聞いてみたい。ボーイスカウトはいろいろな国と交流があるので、いろいろな文化があり、例えば、子どもよりおとなの地位のほうが下という国もあるし、中学生ぐらいの子どもを妻と紹介する国もあるなど、いろいろ混同するので精査しようと始まった。おとなと子どもの社会的な問題などもあるかと思う。人が集まらないなどの問題もあるだろうが、コミュニケーション的な問題も考えてみたい。

委員 大切な問題だ。子どもの人権に関することだ。

委員 特に地域が突然子どもを引き受けると、子どもの人権に慣れていない人たち、子どもの成長に慣れていないおとなたちが意味もわからず子どもを叱るようなことがあったりして、子どもを傷つけてしまう。その子の特性などを知らないで、子どもの背景を見ないで突然地域に出されてしまうと、子どもが地域を怖がってしまう。それは必要なことだ。

委員 最近テレビでも発達障害などの言葉を聞くが、情報を得ようと思って言っている人は得られるけれども、普通に子ども会や自治会などのお祭りで接する地域の人達はそんなに気にせず怒ってしまう。

委員 子どもにしたら理不尽な叱られ方になってしまう。見ていれば止めるが難しいところだ。

委員 服装に関しても、「男だから」「女だから」というようなことも起きてしまう。

委員 いくつかトピックを決めてそこに集まるのもよい。ほかの団体でも気になっているところもあるのではないか。

議長 2つ3つのトピックでもよく、参加者が多い場合、同じテーマを二つにということもあるかと思う。

委員 これらのトピックについて話し合うのもよいし、前回の会議の中で出たあきしま会

議のあり方を聞きたいということもあるので、子どもの人権のことなど踏まえつつ、次のあきしま会議を一緒につくっていくような場ができればよいと思う。

委員 今回の準備会は、あきしま会議のイメージがわかっているこれまでの参加者ということではどうか。ざっくばらんに話してもらいたいということかと思う。

議長 前回のあきしま会議で、「ただ言いつばなしではもったいない。プロジェクトのようなものをつくったらどうか」と提案されたので、それを受けて、他市の社会教育委員の方から、行政に対して具体的なプロジェクトを立ち上げてすぐにも実現するわけではないので、いったんそうした意見を受けとめるサロンのようなものをつくってみれば、そこが一種の緩衝材のような組織となり、挫折感なくやっていけるのではないかというアドバイスをいただいた。いい案だと思った。そういう意味でも、前回ご提案くださった方ご本人の構想なりを聞いてみたい。あきしま会議を続けて来て、徐々にそうした雰囲気が出てきていて、今回はっきり提案があったので、考えたい。

事務局 あきしま会議の参加者が、あきしま会議運営の仲間となるような場ではないかと考えている。

議長 それはいいかもしれない。

委員 準備会の中で、私たちがどういったことを知りたいかとかどう進めたいかということかとも思う。今までのやり方を変えるという意見もあるかも。

委員 次回のあきしま会議をどうつくっていくかということも含めて、プロジェクトを立ち上げたいという提案に応じて、ではどういうふうに進めていかなど、何のテーマでやるのかなども再確認しておきたい。プロジェクトというのと今後のあきしま会議のあり方を連動するものなので、それでいいと思う。プロジェクトとしてこういうのをやってはどうかというのが出ていたかと思うので、それについてどうするか話し合うのと、今上がっていた子どもの人権などについては、その次のあきしま会議本番でのテーマとなる可能性があるものではないかとも思う。

委員 子どもの人権に関しては最終的には通常のあきしま会議でのトピックとしたい。これまではそれぞれの活動を報告するというような内容が中心だったが、子どもの人権のことやコミュニケーションの取り方についても興味のある方たちが集まってそのテーブルで話をするというのもあるのではないか。それについて今度の準備会でこれからのあきしま会議をどういうふうにつくっていくかという部分で話し合われるとよい。

委員 とてもよいと思う。

議長 私としては発言された方のお話を聞いてみたい。前回の意見を踏まえて、話をしたいということと呼びかけたい。

委員 主な議題は2つあって、前回のあきしま会議で出たプロジェクト案についてと、今後のあきしま会議の進め方についてとなるかと思う。

事務局 3月18日の流れの組み立てについては、次回ご意見をお願いしたい。

議長 では、呼びかけをしてみて、次回の会議で参加状況など確認しつつ、協議したい。

次回 2月20日(月) 午後7時より 市役所2階 204会議室にて
3月18日(土) 午後1時より 市役所2階 204会議室にて
※あきしま会議ステップアップミーティング実施
3月23日(木) 午後7時より 市役所2階 204会議室にて